

平成 29 年 6 月 30 日

茨城県生活環境部生活文化課
安全なまちづくり推進室

雨天時の運転に気をつけましょう

本格的な梅雨を迎え、雨天時に運転する機会が増えます。また、夏が到来すれば雷雨等のゲリラ豪雨も心配されます。雨天時は、降雨等の状況により視界が悪くなるばかりではなく、路面も滑りやすくなるため、慎重な運転を心がけなければなりません。

特に、学校近くの通学路を走行する場合、傘をさして歩く小学生や、レインコートを着用して自転車に乗る中高生に十分注意する必要があります。

今回は、雨天時の事故の特徴や事故防止のポイントについて配信いたしますので、各事業所におきましても引き続き、交通事故防止に向けてご指導いただきますようお願いいたします。

雨天時の死亡・重傷事故の特徴

- 1 薄暮時から夜間（特に 16~18 時）にかけて多く発生
- 2 人と車両の事故の割合が高くなる



雨天時の注意点

運転者

- 雨天時は路面が滑りやすく停止距離が長くなります。傘のない歩行者・自転車は、急に道路を横断したり進路を変更するなど危険な行動を取る場合があるので、速度を落とした運転をしましょう。
- 雨天時は視界が悪くなります。周囲が暗い時は昼間でもライトを点灯し、周りに自車の存在を知らせましょう。
また、対向車・先行車がない場合は上向きライトを活用しましょう。
- 急ハンドル・急加速・急停止等、「急」のつく運転は行わないようにしましょう。
- 運転する前にタイヤの溝やワイパーの劣化を確認しましょう。



自転車・歩行者

- 自転車利用者は、傘差し運転をしないようにしましょう。
- 歩行者はなるべく明るい色や目立つ色の雨具（傘・カッパ）を使用し、夜間は反射材を着用しましょう。

